ふりがな　　あおき　しゅうへい

氏　名　　**青木　周平**

1. 学歴

2000 年　3 月　東京大学教養学部総合社会科学科相関社会科学分科卒業

2002 年　3 月　東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻修士課程修了

2009 年　2 月　東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻博士課程修了，博士（経済学）取得

2. 職歴・研究歴

2009 年　4 月　財団法人 総合研究開発機構ジュニアリサーチフェロー

2010 年　4 月　一橋大学イノベーション研究センター助手

2011 年 10 月　一橋大学大学院経済学研究科講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

基礎マクロ経済学

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義で，科目番号200番台の基礎マクロ経済学を教えている。この講義では，モデルを使ってマクロ経済に関する諸問題を整理し理解する方法を教えていきたいと考えている。この講義の目標は，（1）基本的なマクロ経済モデルの数学的解法を理解し，モデルから特定の結果が導かれる理由を直観的に言葉で説明できるようになること，（2）マクロ経済に関するごく基本的なデータがどうなっているのか知ること，（3）数字を使った考え方（定量的な考え方）にある程度慣れることである。

4. 主な研究テーマ

（1）戦後日本の高度成長

（2）所得格差のマクロ経済学的分析

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

『経済動向指標の再検討』（経済分析　政策研究の視点シリーズ 19）美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・沢田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著，内閣府経済社会総合研究所，2001 年 3 月。

（b）論文（査読つき論文には*）

"Theory and Measurement on Productivity and Living Standard," 2009 年 2 月，東京大学，博士（経済学）。

「現代のマクロ経済理論から見た日本経済の成長と停滞の原因」，『一橋ビジネスレビュー』，第 58 巻 2 号，

pp. 32-43, 2010 年秋号。

* "Measuring a Dynamic Price Index using Consumption Data," (joint with Minoru Kitahara) *Journal of Money, Credit and Banking*, Vol. 42, No. 5, pp. 959-964, 2010.

"Chapter 1. Income Risks Faced by Contemporary Japanese Households: Part 2. Income Disparities and Income Risks Overseas: Current Conditions and Long-Term Trends," *The Japanese Economy*, Vol. 37, No. 3, pp. 53-61, 2010.

"Chapter 3. Policy Response to Risks in Foreign Countries," (joint with Kimiya Nakagomi and Naoki Shimoi) *The Japanese Economy*, Vol. 37, No. 3, pp. 74-128, 2010.

"The Role of the Government in Facilitating TFP Growth during Japan's Rapid Growth Era," (joint with Julen Esteban-Pretel, Tetsuji Okazaki and Yasuyuki Sawadam) in K.Kalirajan and K.Otsuka editors, *Community, Market and State in Development*, Palgrave MacMillan, 2011.

* "A Simple Accounting Framework for the Effect of Resource Misallocation on Aggregate Productivity," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 26, No. 4, pp. 473-494, 2012.

（d）その他

「政策レジームの経済学――リスクを分かち合う社会へ vol.4 自由主義レジームのメカニズム」, 『経済セミナー』, pp. 80-87, 日本評論社, 2011 年。

「政策レジームの経済学――リスクを分かち合う社会へ vol.5 近年の先進国における所得リスクの趨勢」,『経済セミナー』, pp. 80-87, 日本評論社, 2011 年。

"A Model of Technology Transfer in Japan's Rapid Economic Growth Period, " IIR Working Paper WP#11-05, 2011.

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

"A Model of Technology Transfer in Japan's Rapid Economic Growth Period," 「大震災・人口減少と経済理論・経済政策」コンファレンス（九州大学）, 2011 年 8 月 23 日。

（b）国内研究プロジェクト

「日本経済の持続的な経済成長のための企業動学に関する包括的な研究」連携研究者（研究代表者 権赫旭）, 文部省科学研究費補助金, 基盤研究（A）, 2011 年度 － 2014 年度。

「動学的一般均衡モデルを用いた高度経済成長の分析」研究代表者, 文部省科学研究費補助金, 若手研究（B）, 2012 年度 － 2013 年度。

「科学技術イノベーション政策の経済成長分析・評価」実施メンバー（研究代表者 楡井誠）, 科学技術振興機構「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」, 2012 年度 － 2015 年度。

7. 学外活動

（b）所属学会および学術活動

日本経済学会